

●プロレタリア国際主義の旗のもとに

インドネシア人民への

階級的連帯を組織せよ！

日帝の自衛隊機派兵・自衛隊法改悪を許さない！

前進するインドネシア人民の反独裁闘争は、いよいよスハルト政権の打倒を日程にのぼらせており。これに対して日米帝は自らの権益を守るために反革命的介入の準備を整えている。われわれ共産主義者同盟（全国委員会）は、すべての労働者人民が、日米帝のインドネシア介入を許さず、インドネシア人民のたたかいへの連帯に立ち上がることを呼びかける。

（1）歴史的終幕期むかえるスハルト独裁政権

深まる経済危機が人民の生活を圧迫するなか、今年三月にスハルトが大統領に再選されたことを契機に、学生を先頭にした反スハルト独裁闘争は急速にインドネシア全土に拡大してきた。そうした状況下でスハルト政権は、今月五日、ガソリン七一%・電気料金二〇%という公共料金の大大幅上げを実施した。人民の生活苦に追い打ちをかけるこれらの政策を批判し、「政治改革」を求める一二日の学生デモに対して、治安部隊が発砲、六人の学生の命が奪われた。この事件はスハルト政権に対する人民の不満を一気に爆発させ、一三日には「一五カ国グループ（G15）」首脳会議を終えて帰国するスハルトを迎撃つかのように、首都ジャカルタで大規模な反政府闘争が展開された。ブルジョア・マスコミは一連の事態の報道において、それを「暴動」として描きだしてきた。しかし事態の本質は、スハルト独裁政権の歴史的終焉に至る過程であり、長期にわたって抑圧されてきたインドネシア人民の階級闘争の新たな発展の幕開けを告げる歴史的局面と捉えなければならない。反独裁闘争の高まりに対し、スハルトは、一方で内閣改造、燃料価格の値下げなど小手先の懐柔策を打ち出し、他方で治安部隊を増強するなど、あくまで権力の座にしがみつこうとしている。しかしながらインドネシア人民の反独裁闘争の波はもはや押し止めることはできない。

一九六五年の軍事クーデターで権力を掌握したスハルトは、インドネシア共産党（PKI）を壊滅させ、五〇万人にのぼる人民を虐殺し、自らが「新秩序体制」と呼ぶ苛酷な治安弾圧体制を敷くことによって延命を果たしてきた。同時にこの三〇数年間は、帝国主義と癒着したスハルト一族とひと握りの支配層にますます富が集中し、圧倒的多数の労働者人民にますます貧困と抑圧が強制されていく過程であった。いま経済危機の深まりのなかで、「新秩序体制」のもとで蓄積されてきた矛盾が、

ついにスハルト政権の打倒を掲げる政治闘争として爆発し、スハルト政権を窮地に追いやっているのである。

アジア諸国の反人民的支配層はインドネシアにおける事態の成り行きを恐怖をもつて見守っている。インドネシア人民の闘いが、同じように経済危機のなかで貧困と抑圧を強制されている自国の労働者・被抑圧人民を政治的意識を振り動かすことには避けられないからである。スハルト政権を追いつめるインドネシア人民の反独裁闘争の巨大な前進は、まさに「激動のアジア」を切り開き、アジア・第三世界の労働者・被抑圧人民の反撃の開始を告げるものなのである。

（2）インドネシア人民の貧困の真の原因である帝国主義

帝国主義者どもは、ロシアを含めたG8会議において、「インドネシアにおける情勢、とくに今般の暴力の高まりと人命の損失を深く懸念する」という一文から始まる特別声明を採択した（一六日）。そこでは「インドネシアでは政治的改革の必要性は広く認識されている」とも述べられている。だがこれほど欺瞞に満ちた言葉はない。なぜならこれまでスハルト独裁政権を支え続けたものこそ他ならぬ帝国主義だからである。

帝国主義は、人民の血の海のなかから誕生したスハルト独裁政権を「反共防波堤」として歓迎し、今日に至るまで莫大な援助をつき込んでいた。同時にあい争つて経済侵略を進め、農地収奪や環境破壊を引き起こしながら、インドネシアの労働者人民を多国籍資本の搾取の鎖につなぎとめてきた。ますます拡大する多国籍資本の国際的展開のなかで、巨額の累積債務問題と貿易赤字を背景に抱えたインドネシア経済は、巨大な国際金融資本の投機活動に揺さぶられ、危機的状況に陥った。その意味でインドネシアの経済危機は、インドネシアの内的要因というよりはむしろ帝国主義が生み出したものである。今日、貸しつけた莫大な融資が不良債権化することを恐れる帝国主義は、IMF（国際通貨基金）を通して緊縮財政・構造調整政策をおしつけている。それは増税、公共料金をはじめとした物価の大幅上昇、公務員賃金の賃下げなどをもたらし、インドネシア人民の生活を破滅的な状況に陥れた。解雇・合理化によつてこのかんすでに二五〇万人が職を失っている。

今日のインドネシア人民の苦難と貧困は、こうした帝国主義の支配によつて生み出されている。そして今日のインドネシア

1998年5月19日 発行

共産主義者同盟（全国委員会）

■ 大阪戦旗社 大阪市北区本庄西2-8-19
明豊ビル401号 大労内
TEL(06)371-3706

人民の決起の根底には IMF・帝国主義への批判が宿されている。したがつてインドネシア人民の解放闘争は、大統領の首をすげ替えることによってのみ終わることはない。たたかいの発展のなかで帝国主義の第三世界支配の道具としての IMF、そして帝国主義そのものに対する広範な批判と闘争が必ずや巻き起こっていいくだろう。

(3) 日米帝の反革命的介入を許すな！

日米帝国主義は「スハルト以後」をも睨みつつ、インドネシアにおける自國権益を守り、その政治的支配を何とかして維持しようとしている。「スハルト政権を助けるかどうか」という問題ではなく、世界経済のためにどう対応するかという問題だ（橋本首相）という発言が端的に示すように、日米帝にとっての関心は、むろんインドネシア人民が民主主義をたたかいることにあるのではなく、築き上げてきた経済権益を確保することにある。その点では、それさえできれば彼らにとっては誰が大統領であろうとなろうと構いはしないのである。

米帝は、反独裁闘争の拡大と軌を一にして、インドネシア国軍への軍事訓練を強化してきた。現在はタイとの合同軍事演習「コブラ・ゴールド」を利用して、在沖海兵隊など一万人と強襲揚陸艦ベローウッドなど三隻をタイ沖に展開させ、いつでもインドネシアへの軍事介入ができる態勢を整えている。インドネシアに対する直接投資の累積総額でも ODA の供与額でも世界第一位の日帝は、築き上げてきた権益を一举に失いかねない事態を前にして恐れおののいている。経済危機の煮つまつた今年三月には橋本首相自らがインドネシアに乗り込み、その後も二〇億ドルの追加融資を決定して、スハルト独裁政権を最後まで支えようとする姿を全世界に印象づけた。さらに一三日のジャカルタでの大規模な反政府闘争に直面して、かつて田中首相（当時）の訪問時に展開された反日決起（七三年）のことく、その矛先がむきだしの搾取を繰り広げる現地の日系企業に向くことを恐れる日帝は、「現地邦人の保護」を声高に叫び、新ガイドライン安保体制のもとで米軍の軍事介入態勢を支えつつ、自衛隊機のインドネシア出動の機会をうかがっている。われわれはインドネシア人民のたたかいの前進を封殺する日米帝の軍事介入策動を決して許してはならない。

(4) インドネシア人民の闘争への階級的連帯を！

スハルト政権を追いつめるインドネシア人民の反独裁闘争は、明日二〇日のスハルト退陣を掲げた全国規模での反政府集会を控えています先鋭になろうとしている。また権力に固執するスハルト政権の弾圧体制もますます厳しくなるとしている。われわれ共産主義者同盟（全国委員会）は、すべての労働者人民反独裁闘争に階級的連帯を組織していくことを呼びかける。そのとき日帝本国プロレタリアートにとって欠かすことのできない任務は何か。

その第一は、日帝のインドネシア支配に対する反対行動に立ち上ることがある。かつてインドネシアを軍事占領下に置き銃によって人民を虐殺した日帝は、他の多くのアジア諸国に対

してと同様に、敗戦後は戦後賠償を足掛かりに、またその後のODA供与を通じてインドネシアに各帝国主義のなかで最大の権益をもつ帝国主義となっている。こうした自國帝国主義による歴史的な支配・侵略を免罪したまま、インドネシア人民との連帯をつくりだすことはできない。スハルト政権を支える日帝のODA供与を即時中止させ、日帝のインドネシア支配とたたかおう。同時に、排外主義とたたかい、自衛隊のインドネシア出兵を阻止するためにたたかおう。すでに日帝は「邦人救出」のための準備として、自衛隊輸送機 C-130 のシンガポール待機を決定した。のみならず自衛艦を出動させるために、国会上程中の自衛隊法改悪案の先行処理を策動している。ここにおいて日帝本国プロレタリアートは自らの階級性を試されている。ブルジョア・マスコミはインドネシアにおける事態を「暴動」としてのみ描きだし、「邦人救出」キャンペーンを垂れ流している。日帝本国プロレタリアートはこれと闘わなくてはならない。日帝のインドネシア経済侵略の実態と自衛隊派兵の背後にあり、帝の有事体制構築の野望を暴露し、排外主義煽動を打ち破り、ともにたたかう仲間としてインドネシア人民への連帯を組織しよう。

第二に、新ガイドライン安保体制下での米軍の侵略・反革命軍事介入を許さず、有事立法制定攻撃を粉砕するたたかいを全力でつくりだすことである。在沖海兵隊の展開が示すように、新ガイドライン安保はアジア人民のたたかいに対し発動されている。そしていま日帝は「周辺事態法案」をもって、米帝とともにアジア侵略反革命軍事出動に踏み出そうとしている。それを粉砕するたたかいを組織することはアジア人民と連帯せんとする日帝本国プロレタリアートの責務である。

第三に、インドネシアにおける反帝民族解放・社会主義勢力への連帯と結合をつくりだすことである。インドネシアではすでに支配層内部の分裂が開始され、米日帝の介入策動を含んで、事態は多様な勢力のさまざまなる思惑をはらんで推移している。そのなかでたたかいの発展を親帝政権の発足に結果させてしまふさまざまな傾向と分岐し、労働者階級のたたかいに基礎を置き、反スハルト独裁闘争と反 IMF・反帝闘争を固く結びつけ、粘り強くたたかいを反帝民族解放・社会主義へと領導していくとする勢力がすでに存在している。われわれはこの勢力に着目し、その社会主義革命の実現に向けた苦闘に連帯していこうとする勢力がすでに存在している。われわれはこの勢力との結合をつくりだそう。

最後に、以上をもって、アジア人民の反帝共同闘争の前進をかちとつていくことである。インドネシア人民をはじめとするアジア人民の解放の展望は、日帝の帝国主義のアジア支配・侵略を打ち破るアジア規模での労働者・被抑圧人民のたたかいの結合のなかにある。日帝本国プロレタリアートの真の解放もまたそのなかに存在する。わが同盟（全国委員会）は、すべての労働者人民がアジア各国のたたかいを結ぶ「日帝のアジア支配・侵略・侵略とたたかうアジアキヤンペーン」（AWC）およびその一翼を担うアジア共同行動日本連絡会議に結集し、アジア人民の反帝共同闘争の前進を担つていくことを呼びかける。

プロレタリア国際主義の旗のもと、われわれとともにたたかうインドネシア人民への連帯に立ち上がろう